

序

すでに国内外に神経放射線診断学の書物は数多い。そこに敢えて本書を企画し刊行したのは、われわれ3名の編者が、画像についても臨床的な事項についてもこれ1冊あれば万全と言える内容のものは未だ現れていないという認識で共通していたからに他ならない。これまでの書籍の大半は、教科書として読み進むうえでは多くの重要な疾患の基本的な事項がよく記載されており、必ずしも大きな問題があるという訳ではなかった。しかし日々の読影の際に何らかの疑問点が生じた時や、関連事項を知ろうとして参照した場合には、記述が不十分で実際には「使えない」という経験が少なくなかつた。もちろん本書もすべての点で完璧という訳にはいかないが、従来の書籍より数段多くの疾患を網羅するとともに、臨床面や画像診断における最新の情報を極力盛り込んで「通」（中級以上）の方々にも日常的に十分役立てて頂けると思われる内容を目指した。

実際には本書の編者の1人の土屋が共編した「できる！画像診断入門シリーズ 頭部画像診断のここが鑑別ポイント 改訂版」（羊土社刊、2011年）のスタイルを引き継ぎ、そのうえで収載疾患と関連事項について一段上のレベルアップをはかるという形で3名の編者が企画・執筆・編集を進めた。さらに本書の大きな特徴として各項目で「診断に役立つupdateな情報」という欄を特に設け、画像所見や技術面に限らず、画像診断に役立つと考えられる情報を解説したことをあげたい。

本書は編者らがこれまで学会その他で築くことのできた人脈から、特に神経放射線診断学の各領域のエキスパートの方々に協力して頂いた。いずれの先生方も編者の意図を十分に汲んで執筆して下さり、加えて多くの貴重な症例画像をご呈示頂いた。執筆者が多数にわたると、しばしばさまざまなもので不統一が生じやすいものだがこれは編集の段階で極力除こうと努力したつもりである。

当初、企画の段階で本書は2011年4月初旬の第70回日本医学放射線学会総会に向けて発刊を目指し、執筆とその後の編集作業を進めていた。しかし3月に東日本大震災が発生して物流の停滞や印刷工場の稼働停止など実際面での大きな支障が生じ、予定通りの進行が困難になった。そこでわれわれ編者と羊土社の方々とで検討し、更なる内容の向上や全編にわたる記述やスタイルの統一・改善などを図った後に発行することとし、著者の方々には予想外ながら再度の校正といった作業をお願いしてようやく完成に至ったものである。当然、発行はかなり遅れてしまったものの、著者の諸先生の御理解も得ることができて、上記のような追加作業によりさまざまな点でブラッシュアップできたと考えている。

本書を日常臨床において、この領域に携わる放射線科医のみならず、脳神経外科、神経内科、小児科などの関連各科の臨床医の方々にも本当に「使える」本として役立てて頂き、それが臨床にフィードバックされたらわれわれ編者には望外の大きな喜びである。なお、画像や臨床情報で当然最新情報を心がけたとは言え、残念ながら恐らく数年で陳腐化することは免れ難いと予想される。その際には改訂あるいは新たな情報の形で、この本自体をupdateしていきたいとも考えている。

最後になりますが、多忙な日常業務をぬって執筆に御協力頂いた諸先生ならびに企画・編集に携わつて頂いた羊土社編集部の嶋田達哉氏および庄子美紀氏にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

2011年8月

土屋一洋
前田正幸
藤川 章